

# 文教協会報

## No.677

(令和4年12月)

まなびの泉  
心のかよいあい

わくわく協働活動  
ぬくもり  
ふるさと・再見  
声 こえ VOICE  
～文教のまち 大垣～  
ふるさと美術散歩②

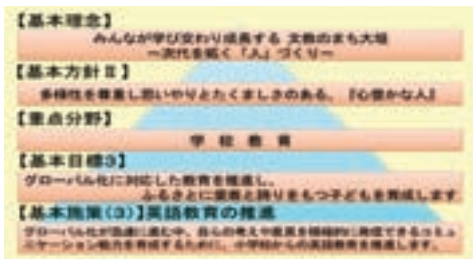
大垣市小・中学校英語教育構想～コミュニケーション能力の育成を目指して～…	2
一人一人がつながる思い出作り (川並幼稚園) ……………	3
子どもたちが安心・安全に学業に臨むために (中川小学校) ……………	3
「家庭の日」知っていますか ……………	4
スクールカウンセラーからみた「SOSの出し方に関する教育」 ……………	5
源頼朝 (みなもとのよりとも) と青墓……………	6
世代をつなぐ俳句の魅力……………	7
令和4年度「市民と先生との意見交換会」 ……………	8
守屋多々志生誕110年 美術館に行こう! ……………	8



大垣市立赤坂中学校生徒の作品

## 大垣市小・中学校英語教育構想～コミュニケーション能力の育成を目指して～

1 大垣市第2次教育振興基本計画の位置づけ  
大垣市第2次教育基本計画における英語教育は、次のように位置づけられています。



2 これまでの歩み

(1) 小学校

① 授業時間

学年	第1～2週	第3～5週	第6週	第7～8週 (海外研修)	第9週
3～4年生	英語科 (26週)			外国語活動 (18週)	外国語活動 (26週)
5～6年生	英語科 (26週)		外国語活動 (26週)	外国語活動 (26週)	英語科 (26週)

※ 1コマ45分授業  
※ 第7～8週の外国語活動は、週ごとに15分の英語活動、外国語活動の1コマ15分×3週、第9週は、外国語活動も、25分間の「教科・英語科」として実施。

② 地域人材講師 (VET) や外国語指導助手 (ALT) との2人体制や3人体制の授業  
ネイティブスピーカーであるALTを10名派遣し、小学校22校と中学校10校に配置するとともに、英語地域人材講師であるVETを小学校3年生から6年生の全学級に年間30時間ずつ配置しています。

(2) 中学校

① 市内共通パフォーマンステストの実施  
市内共通のトピックを用いて、普段話すことのない他校のALTとの英会話を通じ、より実践的なコミュニケーション能力を育成しています。

② 4技能5領域向上プロジェクト委員会  
日ごろの指導に生かすため、各校の英語科の教員が集まり、「プロジェクト委員会」を開催し、評価や指導の在り方について協議するとともに、定期テストの在り方の情報交換等を実施しています。

3 令和4年度からの歩み

本市のこれまでの取組を継続しながら、さらに児童生徒の英語力を高めていくため、「世界に飛び出す」大垣の子どもを育てる英語教育向上プロジェクト」を行っています。

(1) オンライン異文化コミュニケーション

外国人との実際の英会話は、「伝わった」「分かった」といった大きな喜びと、もっと「伝えたい」「分かりたい」といった意欲を高めることにつながります。

このため、児童生徒が、英語を学び、使う必然性を高めるために、大垣市版「GIGAスクール構想」に基づき整備した一人一台タブレット端末を活用し、オンラインによる海外に住む同世代の児童生徒との交流を実施しています。



海外との交流の様子 (静里小学校)

(2) コミュニケーション向上サポートシステム

さらに英語力を高めるためには、自分の英語力を客観的に認知し、学習に生かしていくことが必要です。

このため、児童生徒のやる気・意欲を引き出し、自ら主体的に実践的なコミュニケーション能力を身に付けることができるよう、株式会社ベネッセコーポレーションの下記システムを導入しています。

① 「<sup>ジーテック</sup>GTEC」(中学校)

中学校2年生を対象に実施します。

「GTEC」は、「聞く、読む、書く、話す」の4技能それぞれについて、生徒にスコアが数値と文章アドバイスでフィードバックされるとともに、国際基準である「<sup>セファール</sup>CEFR」(\*)での判定が可能です。

② 「Speaking Quest」(小学校)

小学校6年生を対象に実施しています。児童による自己評価や、大垣市版「GIGAスクール構想」に基づき整備した一人一台タブレット端末の学習ソフト「ミライシード」との連携が可能です。

(\*) 外国語のコミュニケーション能力を表す指標のことで、国際標準規格。CEFRのA1レベルは、英検3級相当。

(学校教育課 奥田 裕一)

## 一人一人がつながる 思い出作り

川並幼稚園 PTA会長 安藤 美幸

連日、新型コロナウイルス感染症のニュースが流れ、不安な日々が続いておりますが、大人の心配とは裏腹に子どもたちは元気にのびのびと園生活を楽しんでいるようで、限られた中でも自分たちなりの楽しみ方を見い出せているように感じています。

川並幼稚園では、スローガンに『にこにこ笑顔 元気いっぱい かわなみっこ』を掲げ、1年を通してつながりのある思い出作りができるようにと考えて計画を立てました。

6月には親子制作で「オリジナルTシャツ作り」を行いました。無地のTシャツに絵の具を使って自由に絵を描いたり、手形を押したりして、素敵なTシャツが仕上がりました。実施後のアンケートでは、「楽しかった」と多数のお声をいただき、とても好評でした。運動会で、このTシャツを着用する予定にしています。

また、夏休みの在宅活動では、「フォトフレーム作り」を企画しました。木製のシンプルなフレームを用意し、その縁を自由に飾りつけて、

オリジナルのものに仕上げてもらいました。オリジナルTシャツを着用した園児たちをクラス単位で撮ることで、形に残るものにできたらと考えています。

川並幼稚園は園児数が少ないですが、その分、ソーシャルディスタンスを確保しながらも同じ空間で友達の気配を感じながら、一緒にものづくりができました。また、どんな保護者や子どもたちがいるのか、役員も把握することができるので、一人一人に目を配りながら活動を進めることができました。親子で一緒に行事を行えることのありがたみも感じました。

まだまだ先の見えないコロナ禍での園生活ですが、親子ともにみんなが楽しく過ごせるように、役員一同、今後の活動も精一杯努めていけたらと思っています。



親子制作「オリジナルTシャツ作り」の様子

## 子どもたちが安心・安全に 学業に臨むために

中川小学校 PTA会長 伊藤 友輔

まずもって、日頃より子どもたちの新型コロナウイルス感染症に対する予防の徹底に対し、尽力・配慮いただいているPTA会員はじめ、学校関係者や教職員の皆様に改めて感謝申し上げます。

今年度のPTAスローガンは「ひろげよう！なかがわの共育」です。中川小学校創立150周年を迎えるにあたり、これまで連綿と深めてきた絆を、見守っていただいている地域に広げていくとともに、そこに住まう子どもや我々も「共に育っていきたい」という願いを込めております。

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により学校行事はもとよりPTA行事も活動の制限や自粛を余儀なくされておりますが、その渦中でも子どもたちのためにできること、支えられること、協力できることを考えて活動を行わねばなりません。PTA行事においても「いかに開催できるか」を念頭におき協議を行っています。

5月には大垣警察署に依頼をし、交通安全教室を開催。警察官に放送室より各教室のモニターを通して交通安全を呼びかけていただきました。6月には校区に設置してある安全看板の予

備を作成。経年劣化したものと交換を行いました。

また、通年活動として児童へ絵本の「よみきかせ」を行っています。地域住民やPTA会員よりボランティアを募り、読み手の選んだ図書を朝の時間に各教室にて読み聞かせます。超デジタル化社会のなかでも、想像力や言語能力が高まり感情豊かになるなどの効果が得られ、あえて時代に即さない活動を行うことで、子どもたちの知育の一助を担えます。

PTA活動の根底は「子どもたちが安心・安全に学業に臨める環境づくりのサポート」であると考えます。「行事を開催してあげたい」というエゴが、子どもたちの安心・安全を脅かすことのないように細心の注意を払う必要もあります。

先行きの見えない現状ではありますが、我々が子どもたちのために行うことは、何ひとつ無駄なことではなく、必ず今後の糧となると信じ、活動に邁進して参ります。



交通安全教室の様子

## 「家庭の日」知っていますか

### 1 「家庭の日」とは

毎月第3日曜日が「家庭の日」って知っていますか？「家庭の日」は昭和30年（西暦1955年）鹿児島県の小さな町で「家庭を大切に」という思いと、当時あまり休みがなかった農業従事者のお休み「農休日」が一緒になって生まれました。岐阜県では昭和42年に「岐阜県家庭の日」を定める条例が設置され、毎月第3日曜日が「家庭の日」として定められました。家庭はふれあいと安らぎの場であるとともに、青少年の人格が形成される基盤となり、人との関係のあり方やルールを学ぶ場であることから、大垣市明るい青少年都市市民会議においても、青少年を健全に育てるための家庭づくりの推進を重点目標に掲げ、「家庭の日」を中心に、豊かな人間性を育てる家庭づくりを呼びかけています。



### 2 「家庭の日」の取り組み

#### (1) わが家のふれあいアルバム

平成27年から「家庭の日」の普及活動の一環として、大垣市青少年育成推進委員会が中心となり、「わが家のふれあいアルバム」事業を行っています。この事業は、大垣市内の全小中学校の児童・生徒の皆さんに、5月から12月にわたる期間で、毎月「家庭の日」を中心に家族と一緒に過ごした思い出や、みんなで楽しく食事をする様子などの写真を貼ったり、絵を描いたりして自分だけの「アルバム」を各家庭で作成していただくものです。毎年、4,500点を超えるアルバムの応募があり、優秀な作品10点を表彰しています。



「わが家のふれあいアルバム」優秀作品の一部

#### (2) 「家庭の日」啓発図画・ポスター及び「わが家のふれあいアルバム」作品展

令和2～3年度は、2月下旬に市役所多目的ホールにおいて、「『家庭の日』啓発図画・ポスター作品展」及び「わが家のふれあいアルバム作品展」を開催しました。展示された作品を前に笑顔で写真を撮る家族の姿や、市役所を訪れる方々の多くが家族団らんの様子を描いた子ども達の作品に足を止める姿を見ると、反響の大きさに作品展展示に係る準備の苦労も吹き飛び、「家庭の日」啓発の一助となっていることに喜びを感じています。また今年度は、より多くの方に見ていただけるために、「情報工房ギャラリー」にて令和5年2月22～28日で作品展示を予定しております。



(社会教育スポーツ課 竹内 陽子)

# ぬくもり

## スクールカウンセラーからみた

### 「SOSの出し方に関する教育」

本市において、今年度も小・中学校でスクールカウンセラーや養護教諭等と連携して「SOSの出し方に関する教育」を実施しているところです。この「SOSの出し方に関する教育」では、児童生徒が、自分の心の危機や友達の心の痛みを理解した上での人との関わり方などについて学んでいます。

今回は、本市のスクールカウンセラーと話を  
する中で、私たちが考えていかなければなら  
ないことがたくさん見つかりましたのでご紹介  
します。

#### ○長期休業明けの子どもたちの様子から感じる ことはありますか？

スクールカウンセラーとして学校に勤務させて  
いただいていると、この長期休業明けと学校  
行事の前後は相談が増えると感じています。長  
期休業中は、自分の心が解放されてリラックス  
した状態にあったところから、また学校が始ま  
るというストレスを感じる子どもたちが多いの  
だと思えます。

#### ○どのような相談が多いですか？

人間関係の悩みが多いです。直接トラブルが  
あった場合もありますし、周りの人の言動に対  
して過敏に反応してしまっている場合もありま  
す。特に最近、後者のような繊細な子が増え  
ているような気がします。その繊細さが幼い時  
からあるのか、小・中学生の時期特有の多感さ  
からきているのかを見極めるのは難しいです。  
しかし、そういった子たちはざわざわしたとこ  
ろが苦手なことが多いので、集団の中でときど  
き辛くなるのだと思えます。

#### ○スクールカウンセラーの立場から「SOSの 出し方に関する教育」について思うことはあ りますか。

私たちもスクールカウンセラーの研修などで  
集まったときに話題にしますが、子どもによっ  
て発達段階が違うため、「SOSの出し方に関す

る教育」はとても難しいと感じています。

小学校低学年では、自分の気持ちを表現する  
スキルを身に付けることから始めています。中  
学年では、自分が辛いときの対処の仕方を、高  
学年では、辛そう  
にしている子を見  
つけたり相談を受  
けたりしたときの  
対処の仕方を身に  
付けられるように  
しています。



スクールカウンセラーによる「SOSの出し方に関する教育」  
小学生用資料より

それでも、一人  
一人発達段階が違うため、できるならば個別に、  
それぞれに合った教え方で教えていかないとい  
けないのかもしれませんが、自分と周りの  
子の感じ方の違いを実感するためには、集団で  
学習したほうがよいと感じます。

#### ○子どもに関わる周りの大人たちが意識して関 わるとよいことはありますか？

相談に来る子どもたちの様子から、子どもた  
ちは、「親に迷惑をかけたくない」と思ってい  
ることが多いです。そういった子どもたちは、  
保護者の一言で救われることがとても多いです。  
日常生活の中で、時間にも気持ちにも余裕がな  
いかもしれませんが、どんな様子なのか気にか  
け、声をかけていただくと安心できるかもしれ  
ません。

また、学校の先生方にも子どもたちの様子に  
変化がないかを注意深く見てもらい、声をかけ  
ていただきたいです。その際に、大人同士連携  
をとって、子どもたちが一番必要としている支  
援を考えていけたらよいと思います。私たちス  
クールカウンセラーも、その一役を担えるよう  
努めます。

私たち大人も、子どもたちのSOSの受け止め  
方を学び、子どもたちが安心して相談できる環  
境づくりのための連携体制を整えることで、児  
童生徒の心の危機の対処につなげていきたい  
と考えています。

(大垣市教育総合研究所 日比野 佑亮)

## ●ふるさと・再見●

### みなもとの より とも 源 頼朝と青墓

KAGAYAKI SPOT

平安時代の末期、権勢を誇った平氏を倒し、鎌倉幕府を開いた源氏の武将である源頼朝。街道の宿場であった大垣・青墓には、頼朝の兄妹に関わる悲しいお話が伝えられています。

#### 1. 平治の乱と兄・朝長

平治元年（1159）12月、政治の実権をめぐる争いから、平清盛と頼朝の父、源義朝が戦うこととなり、13歳の頼朝も、兄の義平、朝長とともに参戦しました。

この戦いに敗れた義朝たちは、東国へと逃れ、その途中、ゆかりのある美濃国青墓へたどり着きました。

この「平治の乱」を描いた軍記『平治物語』によると、逃げる途中、頼朝は吹雪のなか行方不明となり、朝長は僧兵の放った矢にあたり、足に深手の傷を負いました。青墓で休息を取ったのち、再起を図り、義朝らはそれぞれ別れて出発することになりました。

しかし、朝長は傷が悪化し、青墓へ引き返してきました。「このままでは、敵につかまってしまう」と思った朝長は、このとき、まだ青墓にいた義朝に殺してくれるように頼みました。父の手にかかり、16歳という短い生涯を終えました。



青墓 源朝長の墓

さらに悲劇は続き、義朝は尾張国の野間（現在の愛知県知多郡美浜町）で家臣に裏切られ、殺されてしまいました。

義平と頼朝は捕らえられ、義平は処刑され、頼朝は幼いこともあり、命は助けられ、伊豆へと流されました。

#### 2. 妹・夜叉姫の死

源氏と青墓の長者・大炊氏は、主従関係で、以前より縁があることから、義朝は青墓宿を京と東国を往来するときの宿としていました。

大炊兼遠の娘延寿は、義朝の側室で、夜叉御前という娘がいました。頼朝とは母の違う妹にあたります。11歳の夜叉姫は、父や兄が捕らえられ亡くなったことを深く悲しみ、杭瀬川へ身を投げたといわれます。

#### 3. 頼朝の青墓来訪

鎌倉時代の歴史書『吾妻鏡』によると、平氏を倒した頼朝は、建久元年（1190）10月、上洛します。鎌倉を出発した頼朝は、知多半島の野間にある父義朝のお墓に立ち寄り、熱田神宮を参拝し、そして、墨俣を経て、青墓宿に宿泊しました。



『新刊吾妻鏡』より関連部分  
(国会図書館所蔵)

その時、大炊氏の長者の娘を召し出し、纏頭（芸能人に対する祝儀や報酬のこと）を与えました。

大炊氏との縁を大切に思ったためといわれています。

(大垣市立図書館歴史研究グループ 長瀬 とも)

## 世代をつなぐ俳句の魅力

大垣市教育委員会文化振興課俳句指導員 高木 佐知子

今年は、奥の細道むすびの地記念館が開館して10周年の記念の年です。松尾芭蕉の足跡をたどり旅に託した芭蕉の想いに触れようと、毎年多くの方が『奥の細道』の旅のむすびの地として親しまれる大垣を訪れます。そんな魅力ある大垣で子どもたちは俳句を学び、俳句に込めた思いを交流し俳句を楽しく詠んでいます。世代をつなぎ、心をつなぐ俳句として、その魅力を広めていきたいと願い日々過ごしています。

### 1 笑顔があふれる学校句会ライブ

平成19年から十年余にわたる歩みが続いている「学校句会ライブ」は、小学生が俳句の楽しさに触れる貴重な機会です。テレビで見る夏井いつきさんたちが易しく楽しく俳句の作り方を教えてくれるのです。楽しかったことや悲しかったことを俳句の種にして十二音のフレーズを作り、そこに気持ちを表す季語（五音）を足すと十七音になります。子どもたちは体を丸めて夢中になって俳句を作ります。全員の俳句が出そろって夏井さんたちは、いろんな俳句を紹介しながら七句に絞ります。すると、子どもたちの鑑賞が始まります。言いたいことが次から次へとあふれてきて俳句の景（けい）が広がります。そして、全員の挙手でチャンピオンが決まるのです。ドキドキの中にあるわくわくで子どもたちはみんな笑顔になります。

今後は、各学校の先生方のもとで句会ライブが展開できるようになることを願っています。

### 2 自己をみつめる高校生俳句交流会

愛媛県松山市で行われる俳句甲子園の予選が大垣大会として毎年開催されますが、近隣の高校生たちが、予選突破を目標に俳句の世界にチャレンジしています。自ら俳句を学ぼうとする高校生を応援しようと、大垣市では、令和3年度、大垣市学生提案事業「高校生俳句交流大会」を開催しました。高校生の俳句は、学校生活の一コマ、日々の苦悩や努力、好きな人への恋心、社会問題など着眼点は幅広く、豊かな世界観が広がります。放課後の俳句勉強会でも、回を重ねるごとに意欲が増し、ものを見る目が細やかになっていくのを感じることができました。さらに、ディベートによって互いの俳句に

ついて大いに語り合うのです。その後、参加したすべての高校生が、俳句の楽しさに触れ、俳句を通して自分や仲間のことを考えることができた振り返っていたのが印象的でした。

今年の俳句甲子園岐阜県代表校のチームも精一杯の力を発揮し、来年への決意を新たにしたところです。高校生の俳句人口を増やすために、さらに努力したいと思っています。

### 3 仲間と楽しむ十六万市民投句

毎年、季節を問わず「俳句を始めたいのだけれど、どうしたらいいでしょうか」と記念館に足を運んでくる人がいます。まず、船町川湊周辺の風景や日常の中で楽しいと感じたことなどを話題にし、その言葉の中から十七音のフレーズを見つけます。そして、それが俳句だとわかると、ほっとした表情になります。次に、大垣市が開催する三尺俳句教室の見学を勧めます。やがて俳句が楽しくなると、いろいろなところに投句して腕試しが始まります。十六万市民投句もその一つです。学校での取組みを投句する小中学生の部は勿論、一般の部にも多くの方から投句が届きます。そして、もう一つの楽しみである選句結果を待ちながら毎月の投句が続きます。奥の細道むすびの地記念館に掲示される特選句短冊を観ようと、また多くの人が集います。俳句文化の拠点として、これからも人々が集える俳句空間を創っていきたいと思います。



掲示された特選句

小・中学校で俳句に親しみ、高校で俳句を味わうことで、俳句に自分の思いを重ね、生き方を模索することができるようになります。そして、俳句を通して仲間と集い、語り合い、改めて自分を見つめる機会を得ます。俳句の楽しさが世代をつなぎ、そういう中で人は育っていくのだと実感します。そのためのお手伝いをもう少し頑張っていこうと思うこのごろです。



## ～ 文教のまち 大垣 ～

### 令和4年度「市民と先生との意見交換会」

令和4年8月1日(月)、令和4年度「市民と先生との意見交換会」を開催しました。新型コロナウイルス感染症の第7波の状況を鑑みて、急遽、市役所のメイン会場を各中学校区会場とオンラインで結ぶハイブリッド型で開催しました。

基調講演では、NPO法人企業教育研究会の



市野氏の講演の様子

市野敬介氏に「考えよう スマートフォン」を演題にお話しいただきました。フィルタリングや家庭での携帯電話のルールづくりなどについて教えていただきました。

グループ討議では、各中学校区会場で文教協会役員・教員・PTAの方で「子どもたちをネットトラブルから守るために、学校と保護者でできること」について話し合ってもらいました。日ごろ、学校や家庭でそれぞれ悩んでいることを交流しつつ、一緒に子どもたちを守るためにどうするとよいか意見を出し合いました。どの会場でも、熱心に討議される姿が印象的でした。

私たち大人が想像している以上に、スマホやネット環境と密接に生活し、大人より巧みに使いこなす子どもたちと、どう関わっていくべきか、学校と保護者が一緒になって考えるよい機会となりました。

(学校教育課 林 のり子)

### ふるさと美術散歩② 守屋多々志生誕110年 美術館に行こう！

昭和29年(1954)、守屋多々志は難関を乗り越え総理府留学生試験に合格し、少年の頃からの夢だったイタリア留学を実現しました。それは42歳にしてやっと手にした遅まきの青春でした。

2年余りの留学中、守屋は古代ローマの壁画など古画模写研究に精力を傾ける一方、イタリア各地を訪ね、景色や風俗、人々の生活など五千枚に及ぶスケッチも描いています。

帰国後は、留学以前の大和絵の技法に忠実なあっさりとした色彩表現から、この《アンジェリコの窓》にみられるように、西洋画のような質感や陰影表現を取り入れた重厚な画面構成へ変遷していきます。

この作品は、留学中訪れたフィレンツェのサン・マルコ修道院の僧房の一室を描いています。中世の修道院独特の小窓の左には、15世紀の画僧フラ・アンジェリコのフレスコ画《受胎告知》が描かれています。顔料を厚く塗り重ねた壁画のような質感の落ち着いた画面に、時を経ても変わらない祈りの空間を表現しています。

守屋はその後も自分の画風の確立を目指し数々の試行錯誤を経て、後に、日本古来の技法を芯に自分なりの新しさや感動を加味し、日本と海外の交流という大きな視点に立った独自の歴史画の世界を切り拓いていくのです。



《アンジェリコの窓》昭和33年(1958) (大垣市蔵)

#### 企画展「守屋のイタリア」

会期：令和5年1月14日(土)～3月12日(日)

日本と海外の交流をテーマに描いた歴史画や、イタリア留学スケッチ、イタリア古画模写を展示します。

